

日本社会文学会 主催 / 三重大学 共催

# 労働文学の 100年

日本社会文学会2016年度秋季大会 (三重大会)

2016年 11月12日(土)

会場 三重大学教育学部大会議室

〔「津駅」下車バス15分、もしくは「江戸橋駅」下車徒歩15分  
車での来場はご遠慮願います〕

一般参加歓迎・入場無料

11月12日(土)  
研究発表 10時30分より

開会挨拶 尾西康充 (三重大学)

(会場1)  
伊藤 純  
「鳴門塩田争議記録とプロレタリア大衆小説「ゴー・ストップ」  
— “起こったこと” と “書かれたこと” —  
呉 恵升  
「石川達三『生きてゐる兵隊』についての一考察  
— 日中両国における評価の相違を軸に —  
増井真琴  
「小川未明と日本少国民文化協会」

(会場2)  
加島正浩  
「「フクシマ」の当事者—大江健三郎の「ヒロシマ」から  
「レイト・ワーク」までを視座として—  
徳永光展  
「山崎豊子『不毛地帯』論—壹岐正のモデルとしての瀬島龍三—」

11月13日(日)  
【四日市公害の今を知るツアー】  
9時30分より

シンポジウム 13時30分より

特集 労働文学の100年

大和田茂「一九二〇年前後の「労働者性」をめぐって」  
糊沢 健「奴隷の言語」  
中谷いずみ「戦争への抵抗と責任  
— 一九五〇年代の労働と文学」

講演 16時より  
鎌田 慧「労働と記録」

質疑応答 17時より

閉会挨拶 小森陽一 (日本社会文学会代表理事)

懇親会 大会終了後、三重大学内にて

連絡先

514-8507 津市栗真町屋町 1577  
三重大学 和田崇研究室  
電話・FAX 059-231-9212  
wadataka@edu.mie-u.ac.jp